



卒業生の

知識社会を生き抜け

(武田信玄「甲陽軍鑑」から学ぶ)

学校長 小 邑 政 明



卒業生の皆さん、
ご卒業おめでとうございます。

保護者の皆様、お子様のご卒業おめでとうございます。入学式からともに歩まれ、今日、立派に成長されたお子様の姿をご覧になって、感慨も一入かと思えます。また、日頃から本校の教育について深いご理解と温かいご協力をいただきましたこと、職員を代表してお礼を申し上げます。

さて、今年度も、中国・四国地方の洪水、北海道の地震などの自然災害、国同士の貿易をめぐる問題など、指導者の力量が問われる事案がありました。また、自動車の自動運転や人工知能を搭載したロボットの開発など、我が国の科学力やモノづくりにも国の将来がかかっています。

これらはいずれも、それぞれの分野のリーダーが大きくかかわっています。つまり、このリーダーたちの信条や行動が我が国の未来を握っていると言っても過言ではありません。私は、リーダーにとって大切な資質の一つは、武田信玄の残した言葉の中にあると考えますので、皆さんに紹介します。

武田信玄は高坂弾正ら家臣に向かって次のような二つのことを語っています。

一つ目、「似たような家臣ばかりを好むことは大名にあってはならぬ。例えば、庭には四つの木を植えれば一年中楽しむことができる。春には桜が色めき、夏には柳が緑にゆらめく、秋になればかえでが紅葉し、冬になれば松、常に変わらぬ松の緑は冬にこそ真価を表す。」すなわち個性の異なる人が集まる集団

こそがどのような状況下でも力を発揮できるということのたとえだと考えます。

二つ目、「おのれよりすぐれた者から日々話を聞くことが大切じゃ。一日に一つ聞けば一か月に三十、一年に三百六十を聞くこととなる。昨年の自分よりはるかに優れた者となる。このように努める者はたとえ読み書きが出来ない者でも私は知者と呼んで大事にする。」百姓の出で読み書きができない高坂弾正はこの言葉に感動し、信玄亡き後も武田家を支え続け、歴史書「甲陽軍鑑」に信玄の言葉を残したとされています。

さて、本校では、「グローバル社会で活躍できる次世代リーダーの育成」を柱として、生徒・教職員・保護者が一体となって教育活動に取り組んでいます。そして、卒業生の皆さんは、日々の学習活動に加え、部活動や学校行事、学生会館での宿泊研修などを通して自分自身を高めるとともに、お互いに協力して一つのことを成し遂げる能力を身につけてきたと信じています。

卒業後は、いよいよ本校で身につけたこの力を社会の中で発揮することができます。先ほど紹介した武田信玄の言葉を胸に、皆さん一人ひとりが才能を開花させ、どのような逆境にあっても、人や集団を生かすリーダーとなって、豊かで活力ある社会を築いていってください。私達教職員一同、皆さんの将来にわたる活躍を期待するとともに、後輩の皆さんの目標となってもらうことを心から願っています。